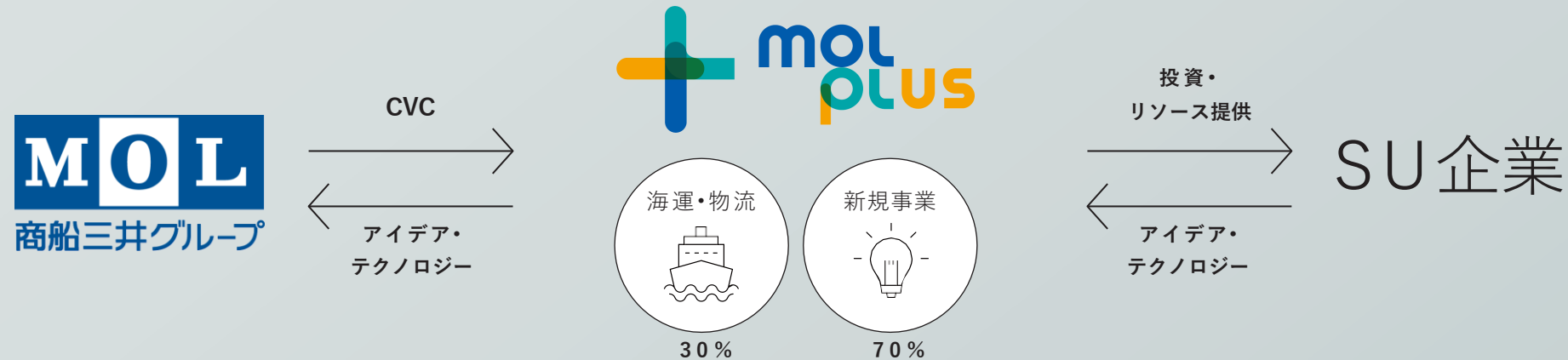




We will PLUS new value to
the ocean shipping industry and society

商船三井グループがファンド期間を設定せず中長期的にスタートアップ支援するCVC



海運業と社会に新しい価値をPLUSする

外航海運業、それは「大型の貨物船で世界中に貨物を輸送すること」。
世界経済を支えるこのビジネスが商船三井の基幹事業であり、誇りです。

そして同時に、地球規模で環境や社会へ影響を与える存在であることから
持続可能な海運業を再定義することが商船三井グループの戦略のコアになっています。

MOL PLUSは、スタートアップ企業がもつ斬新なアイデアやテクノロジーと、
商船三井がもつリソースに相乗効果を生ませ、
中長期的な視点で、海運業のビジネスモデル変革やサステナビリティを実現します。

出 資 枠	40億円（投資期間 FY2021～2024 / ファンド期間の定めなし）
チケット サイズ	～5億円
投資地域	日本（50％）： 欧州・東南アジア/インド・US・その他地域（50％）
投 資 先	アーリー・ミドルステージ中心（主にシリーズA以降）

世界有数の海運会社である商船三井グループは
海運領域を中心にグローバルな経営リソースを豊富に有しています

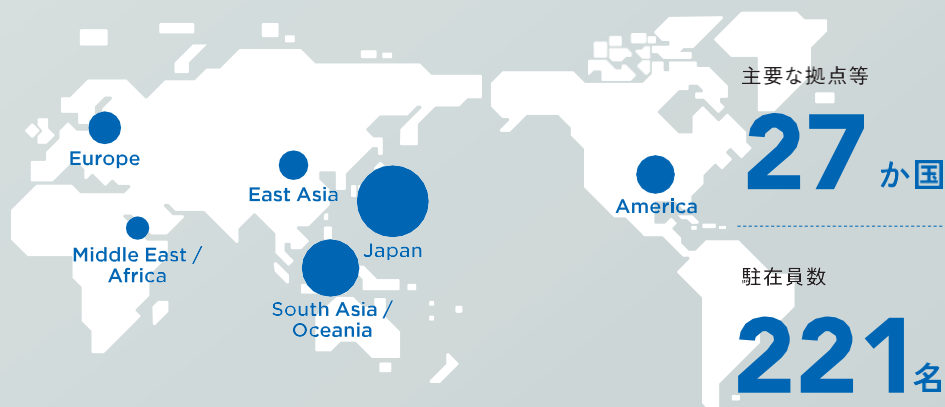


設立
1884年



主要な拠点等／駐在員数

(2024年3月時点) ※円の大小は各地域の拠点規模を表しています。



商船三井の船隊規模

(2024年3月時点)



世界第**2**位 **873** 隻

寄港する国の数

[海に面する国数145カ国のうち]
(2022年3月時点)



100 国以上

MOLグループ
全体従業員数

(2024年3月時点)



9,795 名

グループ会社数 (2024年3月時点)



545 社

連結経常利益 (2024年3月時点)

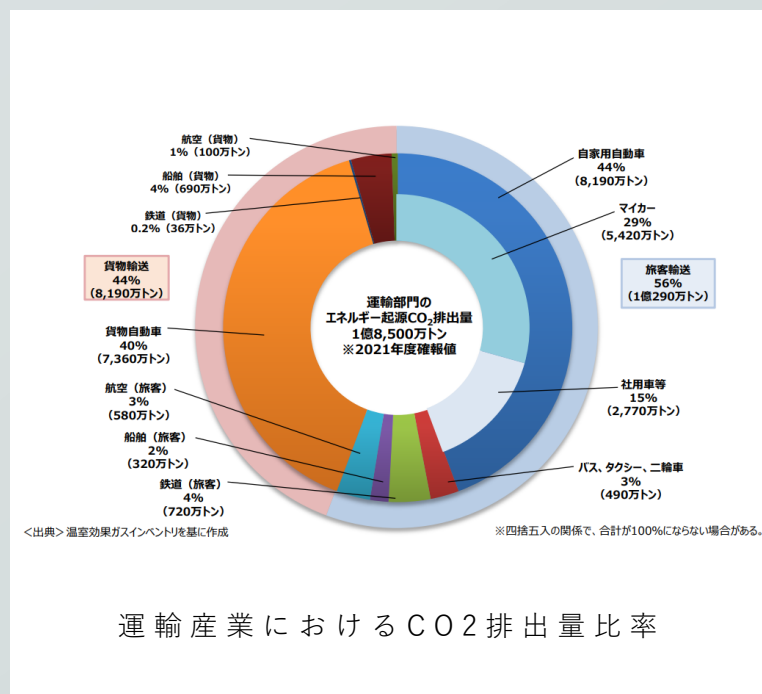


2,589 億円

環境への影響が大きな産業であること、ステークホルダーからの要求が強いこと

また世界的にみてもマーケットを牽引するポジションにあることから

海運ビジネスにおいてサステナビリティは非常に重要な経営のコアになっています



運輸産業におけるCO₂排出量比率

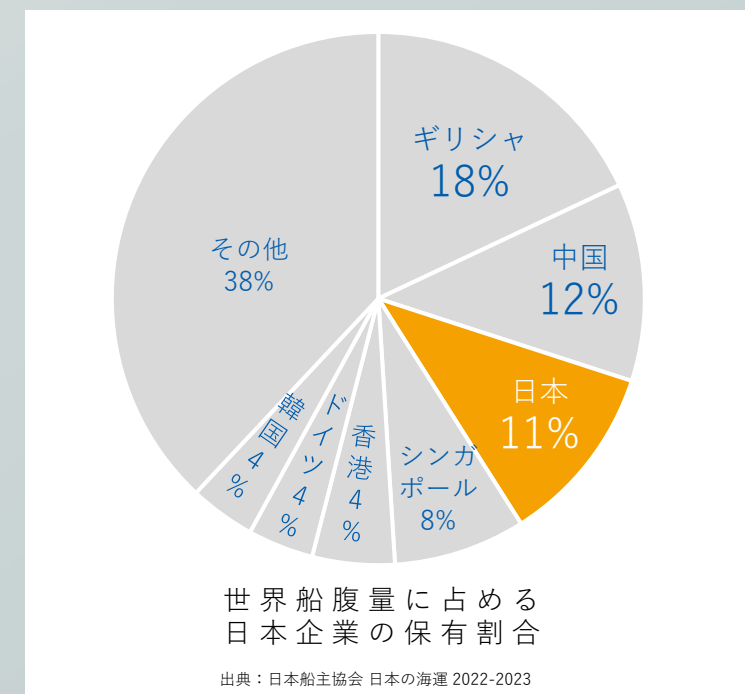
海洋環境への影響や責任が大きい産業である

- ・ビジネスの舞台そのものが海洋であり環境との直接的な関係が強い
- ・ビジネス規模や船の規模が大きく、環境に与える影響も大きい
- ・公共財としての海を利用する立場から責任が大きい



株式市場からはもちろんのこと重要顧客である自動車産業などステークホルダーからの要求も強い

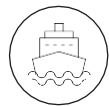
- ・海運は「景気敏感株」であり株式市場からの要求に答えることも重要
- ・重要な顧客である自動車産業、エネルギー産業からの要求も大きい



日本はもちろん世界でも業界を牽引する責任がある

- ・島国日本において、海運業は大きく発達しており、世界3位の規模
- ・なかでも商船三井は総合海運会社として世界でも有数の存在
- ・業界の主要プレイヤーとして社会的責任も大きい

MOL PLUS としては創業からまもなく4年でスタートアップ23社、6ファンドへ、合計40億円投資
海運・物流スタートアップだけでなく、新規事業創出領域へも幅広く投資



海運・物流

+ 海運業、物流業のアップグレード 30%

Digitization	Automation
AI	SaaS
IoT	Robotics

スタートアップ企業投資実績

METRO
WEATHER

rapyuta
robotics

s=ndy

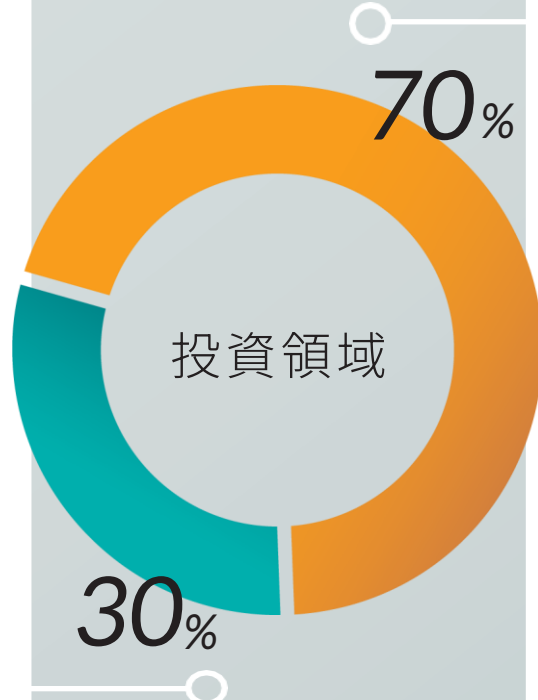


Fleetzero

frontM

ZABOON!

signal



新規事業



+ 環境サステナビリティ 30%

Renewable energy Decarbonization

+ ブルーエコノミー 20%

Maritime Renewable Energy Aquaculture

+ ディープテック 20%

Space Mobility

New Material Food tech

Healthcare Biotech

スタートアップ企業投資実績

atomis

DIGITAL
GRID

Everimpact

WOTA

Regional Fish

KYOTO
FUSIONEERING

AMOGY

mocean
energy

ARK

EMULSION
FLOW
TECHNOLOGIES

将来宇宙輸送システム
Innovative Space Carrier

ENECOAT

hycamite

ベンチャーキャピタル
ファンド投資実績

UntroD
(計3つのファンドへ投資)

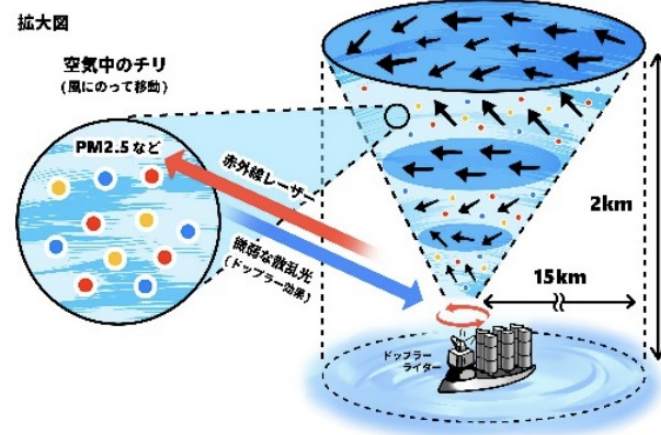
motion

PANGAEA
VENTURES LTD.

Katapult
Ocean

投資するだけではない。商船三井本体と投資先の協業にも力点をおき産業創出へ貢献

脱炭素
社会へ



(右図) 航行中船舶で測定した遠方の海上風況データのイメージ

世界初、船上での
風況計測実験に成功

風況を考慮した
航路最適化で燃料削減
→GHG排出量の削減へ

商船三井は
風力を推進力とする
大型船も開発中

METRO
WEATHER



MOL
商船三井

会社名 | メトロウェザー株式会社

代 表 | 古本 淳一

設 立 | 2015年

所在地 | 京都市、米国  

シリーズ | シリーズA (Extension)

JF Japan
Fusion Energy
Council

持続可能な
エネルギー



フュージョンエネルギー
産業協議会へ参画し
新産業創出を後押し

次世代エネルギーの
輸送ニーズ、海洋事業
展開において貢献

商船三井も新たな
クリーンエネルギー
研究開発に注力中

KYOTO
FUSIONEERING



MOL
商船三井

会社名 | 京都フュージョニアリング株式会社

代 表 | 小西 哲之

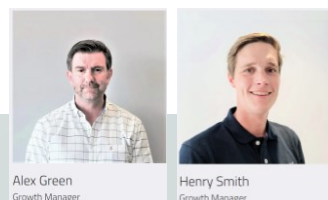
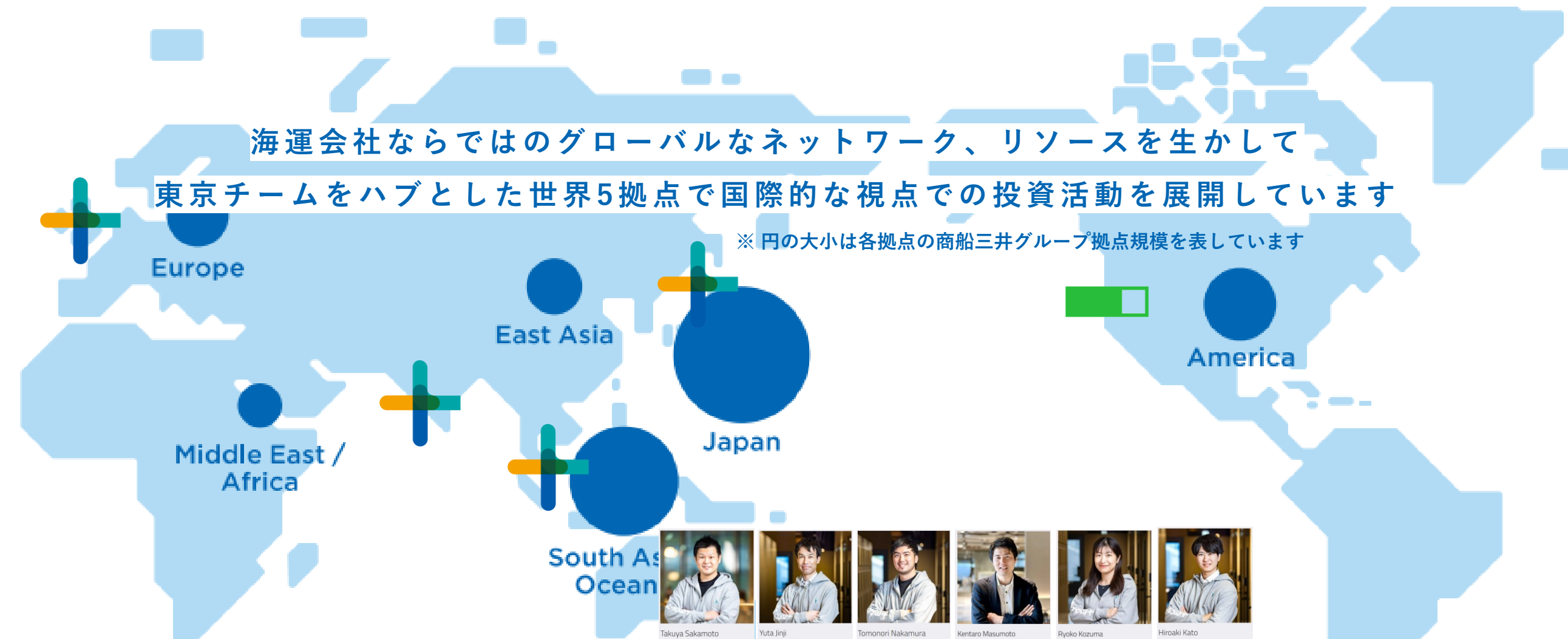
設 立 | 2019年

所在地 | 東京都、英国、米国   

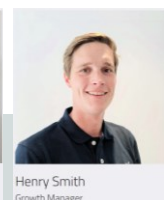
シリーズ | シリーズC (Extension)

海運会社ならではのグローバルなネットワーク、リソースを生かして
東京チームをハブとした世界5拠点で国際的な視点での投資活動を展開しています

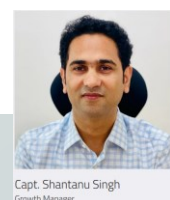
※ 円の大小は各拠点の商船三井グループ拠点規模を表しています



Alex Green
Growth Manager



Henry Smith
Growth Manager



Capt. Shantanu Singh
Growth Manager



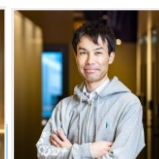
Ryosuke Miyanishi
Growth Manager



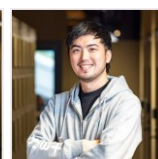
Alvin Seng
Growth Manager



Takuya Sakamoto
Chief Executive Officer



Yuta Jinji
General Manager



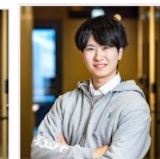
Tomonori Nakamura
General Manager



Kentaro Masumoto
Growth Manager



Ryoko Kozuma
Growth Manager



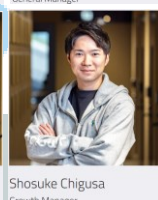
Hiroaki Kato
Growth Manager



Ryo Yakubo
Growth Manager (Intern)



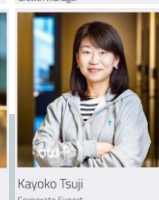
Kohei Sunazawa
Growth Manager



Shosuke Chigusa
Growth Manager



Kanae Shimizu
Corporate Manager



Kayoko Tsuji
Corporate Expert



Yasuhisa Tsubata
Adviser

 MOL Switch

再生エネルギーと
CCUS関連特化のCVC
(3年総額投資枠 1億USD)

UK
2022~

India
2024~

Singapore
2023~

Tokyo
2021~

US
2023~

東京都で開催されるイベント、展示会等のコミュニティにも積極的に参画し
スタートアップエコシステムの構築および事業連携による社会課題解決をアピール



SMART MARITIME NETWORK

スタートアップエコシステムの構築や
スタートアップとの事業連携に関する
取り組みを訴求



東京海洋大学

特別講義・ビジネスコンテスト

東京海洋大学での特別講義とビジネスコンテスト
の審査員アントレプレナーシップ教育として、
海に関連する新規事業開発を訴求



GXスタートアップ ガイドンス公表イベント

経産省主催イベント

GXスタートアップの
成長の難しさや成長軌跡
と壁の乗り越え方を訴求



SusHi Tech Tokyo 2024

海運領域における
ゼロエミッションに対する
重要性や取り組みを訴求